

令和元年度 島根県立盲学校 学校評価報告

- 学校教育目標 児童生徒の障がいの状態と、能力・適性等を十分考慮した教育を行い、一人一人の人格形成に努めるとともに、自立と社会参加をめざす人間を育成する。
- 教育方針 豊かな人間性の育成 ○心身の鍛練 ○社会性の涵養 ○自己教育力の育成

重点目標	No.	担当	各学部、分掌等の目標	評価(点数)	自己評価と次年度に向けた改善策	学校関係者評価	評議員の意見及び改善策等
				平均			
学力保障 ・授業力の向上 ・専門性の維持向上、継承発展 ・新学習指導要領への対応	1	小中普	集団での学習を保障すると共に、研究や研修を元に専門性を高め、授業改善を図る。	3.7	・一人一授業は授業改善につながったが、公開の時期をもう少し早くし、より授業改善につなげられるようにしていきたい。集団学習の保障、「対話的で深い学び」の実現については、研究を中心に児童生徒の成長、授業力の向上についても改善が進んだ。触察についての学部研修を行った。	A	・鍼灸治療時の手袋や指サックと綿花抜鍼については、衛生面で大切なことなので現状を継続して行ってほしい。 一衛生面で大切なことなので現状を継続していく。 ・幼稚部ができるのが喜ばしい。乳幼児の時から道具の使い方を学んだ上で弱視学級に入るのが大事だと思う。幼稚部ができることによって、地域の弱視学級の子どもへの関わりがよりスムーズにできると思う。 ・学習指導要領が新しくなっていく中で、これまでの取り組みより更に自分の考えをじっくり深めることが大切である。どうかたちで指導するのは具体的なじゃないといけない。学習指導要領のポイントがどうかたちで変わってきているのか、どう変えていくのか研究部や教務部などが協力してしっかり取り組んでいく必要がある。 一児童生徒が主体的に考えるための題材や手法などを引き続き工夫していくとともに、考えの根拠となる知識や経験を幅広く身に付けさせていきたい。
	2	理療科	教科の指導法について理療科全体で検討し、理療の専門性の向上を図る。	3.5	・一人一授業を全員が行い、授業改善に繋げることができた。次年度は特定の時期に集中しないように配慮し、お互いの授業を参観しやすい環境を整えたい。 ・3回の理療教科研修会では、鍼灸技の指導法を全員で確認するとともに研修内容を周知し、理療科全体の実技力向上に繋げることができた。次年度も継続して研修会を実施したい。		
	3	地域支援部	相談対象者の実態とニーズを的確に把握し、それに基づいた相談や支援活動を行う。	3.4	・「相談の会」を地域支援部会に合わせて行う予定だったが、しっかり検討する時間を持つことが難しく、学部朝礼等の機会を利用しての情報交換となった。次年度は、適切な支援方法を検討して相談活動にいかし、研鑽の機会とするため、「相談の会」が定期的に開催できるよう日程調整を行っていきたい。		
	4	教務部	新学習指導要領を周知し、授業力向上に役立てる。	3.2	・新学習指導要領について会議や研修会での周知は行うことができなかったが、資料をデータの形で確認できるようにして情報提供を行った。次年度もデータの形で情報提供を行い、分かりやすいフォルダやファイル名を整理し、いつでも閲覧できるようにして周知を図っていきたい。		
	5	研究部	各学部で研究主題を設定し、学習のねらい・指導支援の方法・工夫を共有し、日々の実践、公開授業をおして授業力の向上を図る。	3.5	・各学部でサブテーマを設定し、実践したことは、課題を焦点化した上ででの指導支援につながり、研究を深めることができた。また、互いに授業を公開したことは、授業力の向上につながった。授業公開の時期が集中することについては、時期の分散化していきたい。		
	6	生徒指導部	学部や他分掌と児童生徒の情報共有し、連携を図りながら必要な支援を行う。	3.6	・学校生活アンケートや生徒面談を各学期末に行い、そこで得られた情報を学部会や職員会議で共有することができた。また、具体的かつ的確な支援を生徒指導部として行うことは難しかったが、学部や担任と連携して今後も継続的に考えていきたい。 ・目標や評価指標をもう少し具体的に設定する必要があると感じた。		
	7	生徒指導部	学校図書館を有効に活用することができるよう利用の促進を図る。	3.5	・普段からの児童生徒への声かけや担任との情報交換を通して、個々に合った図書を勧めることができた。 ・理療科用の図書を理療科教室の近くに設置することで、特に理療科の生徒の利用者が増えた。		
	8	保健部	児童生徒の実態に応じて、食育やからだに関する学習についての情報提供や指導の協力を行う。	3.6	・例年、別々に発行していた保健だよりと食育だよりを合わせた形で定期的に発行した。児童生徒の実態に合わせて、食やからだに関する情報提供を行うことができた。来年度は、発行の際に便りの内容を教職員へメールで周知し、必要に応じて児童生徒の指導に活かしやすいようにしていきたい。		
	9	寮務部	研修を企画・実施し、児童・生徒の実態に応じた生活支援ができるようにする。	3.7	・実態に応じた生活支援に関する研修や学校内外の講師を招いての研修会を2回実施した。 ・寄宿舎研修を通して、生活の状況を共通理解し、具体的な支援方法を研修することができた。今後も継続してしていきたい。		
進路保障 ・人間関係力育成のための手立ての工夫 ・キャリア教育の充実 ・職場開拓の推進、福祉施設との連携強化	10	小中普	進んで社会参加をする意欲や能力、主体的に進路選択をする力の育成を図る。	3.6	・学部研修として、キャリア教育で出前講座を行った。今後も出前講座などを利用していきたい。職場体験、現場実習については、保護者と共有しながら効果的な計画ができた。校外学習を計画し、社会との関わりを深めたが、単元の中に校外学習を取り入れ、より効果的な校外学習の内容を今後も工夫していきたい。	B	・理療科の生徒アンケート結果で、ほぼ3.5以上の答えなのだが、進路に関する多くの情報をわかりやすく提供してくれたかという項目が若干だが低いことが今後の課題。 ・どういった情報提供をすることが進路について考えることになるのか、いろいろ探ってみる必要がある。意外と情報を知り得てないことがある。 ・理療科の生徒アンケートを見て、成人した方の進路指導は難しいと感じた。 ・進路先は訪問マッサージが増えている。地元でそういった事業を立ち上げたいという相談も受けている。これからの進路先として治療院よりも訪問マッサージにシフトしている。 一理療科生徒のニーズを把握し、引き続き進路相談を行い、一人一人の進路希望に応じて必要な情報提供に努めていきたい。 ・学園祭は児童生徒数の少ないながらもかなり盛大に感じた。先生方も一緒に盛り上げていると思った。地域の方々と警察学校の方などに見てもらい、とても有意義である。 一今後も行事内容を工夫することで交流の機会を大切にし、人間関係力の育成に努めていきたい。
	11	理療科	進路先の現状や生徒の実態を踏まえた進路学習を行う。	3.5	・生徒の実態を考慮し、職業意識を高めるための学習や生徒が目指すスタイルに近い形態の施設所見学を実施した。次年度も生徒の実態に合わせた学習を計画したい。 ・3月に職場開拓を意識した校外臨床実習を実施予定。次年度以降も継続して実施したい。		
	12	地域支援部	継続教育相談つばさの利用者が合同つばさや学校見学・体験をおとして、本校の教育について知り、進路選択の参考となるようにする。	3.9	・交流や体験をおとして児童生徒自身が盲学校での学習や生活を実感し、仲間とのかかわりを期待する姿が見られた。今後も児童生徒、保護者、担任等の地域での学びの支援や進路選択の機会となるよう継続してしていきたい。		
	13	進路指導部	進路開拓パンフレットの活用を推進し、事業所(福祉サービス事業所を含む)と相談・連携を強化することで、本校の理解を進めたり、進路開拓を進めたりする。	3.5	・年度当初に進路開拓パンフレットの活用方法を周知したり、現場実習なども配布してもらえるように配置したりした。学校のホームページに掲載したり、校内LANの理解啓発のフォルダに入れても良かった。進路決定状況については職員会議で周知した。進路便りの内容の充実や進路コーナーの整備を今後やっていきたい。		
	14	進路指導部	児童生徒・保護者のニーズに応じた進路相談や情報提供を行ったり、進路希望に応じた進路学習を計画的に行ったりする。	3.5	・児童生徒及び保護者のニーズの把握を行い、必要に応じて情報提供を行ったが、十分でない部分もあった。ニーズの把握の仕方の工夫として、高等部の保護者面談に積極的に参加するようにしていきたい。 ・担任等と連携し、学校見学、職場体験、現場実習などを計画的に実施した。		
	15	生徒指導部	行事内容を見直すとともに、その発信方法を工夫することで交流の機会を増やし、人間関係力の育成に努める。	3.5	・例年の案内状送付に加えて、つばさ、ひよこ教室や外来患者にチラシ等を配布しながらより丁寧な発信をすることができた。また、事務室の方々の声かけもあって、工事関係者の来場も見られた。 ・来場者が増え、児童生徒とふれ合ったり、作品等を鑑賞してもらうことなどで交流の場面も例年より増えた。		
16	寮務部	舎生の実態に応じて生活力を高める実践を行い、社会参加と卒後の自立を図る。	3.6	・調理活動を実態に応じて実施したが、外出活動は保険等の条件が整ったので、3学期に1回、企画、実施した ・外出活動の保険等の条件も整ったので、来年度も、舎生の実態に応じて生活力を高める実践を行い、社会参加と卒後の自立を図る活動を継続して行きたい。			
地域貢献 ・センター機能の発揮 ・関係機関との協働、ネットワークへの参画 ・理解・啓発活動の推進	17	小中普	専門性を発揮し、交流及び共同学習、理解・啓発活動の充実を図る。	3.7	・交流において、理解啓発が進む内容、より関わりが深まる内容など工夫をして取り組んだ。各学級で積み上げたことを他学級にも広げていきたい。地域資源の活用については、今後も活発な活用を心がけたい。	A	・公民館をあんま体験会などで利用してもらっているが、地元の方々に盲学校の実態を知ってもらう手段としてとても効果があると思う。今後も是非続けてほしい。 ・昨年度、教育的な観点から講演をした。眼科医も弱視学級の実情をあまり知らない。地域支援部と協力し、自分の症例の紹介とともに県下の眼科医の先生たちに島根県の弱視学級の現状を紹介できた。今後盲学校と連携し、いろんな情報を発信していきたい。ロービジョン観点などの啓発活動をやってほしい。 ・盲学校体験ツアーに参加したがとても良かった。内容的にはよくある内容だったが、子供たちにとってアイマスクをして白杖歩行の体験はとても新鮮だったと言っていた。盲学校を見てもらうというより視覚障害者を知ってもらうという発信になったと思う。こういう体験は是非続けてほしい。 ・イオンでの作品展はSTTTに順番待ちができるくらい子供たちに人気だった。作品展という見ただけといったイメージがあるがアクティブな内容も多く、子供たちに興味を持ってもらえる。昔とは比べものにならないくらい発信力がアップしている。 ・あんま体験会のポスターが前年度はA4サイズで小さく感じたが、今年度はA3サイズに大きくなったので良かった。お年寄りの方が多いので字体を大きくして、ぱっと見てはっきりわかるようなポスターになると、より良くなると思った。集客にもつながると思う。 一今後も継続して、関係機関との協働、ネットワークへの参画、理解・啓発活動の推進など地域貢献に努めたい。
	18	理療科	理療教育の理解・啓発を図るために、学習活動内容を積極的に発信する。	3.6	・情報発信については概ね予定どおり実施することができた。次年度は発信を速やかに行いたい。 ・地域交流あんま体験会を実施することで地域の方々ともふれあう貴重な機会を持つことができた。また体験会をPRしたところ臨床実習室の存在を地域の方に知っていただくことができた。新たな患者の獲得にも繋がった。今後も継続して取り組み、盲学校及び理療科の周知に努めたい。		
	19	地域支援部	島根ビジョンネットワーク等の関係機関と協働し、それぞれの専門性や機能をいかした相談や支援活動を推進する。	3.5	・島根ビジョンネットワークの打ち合わせ会を隔月で実施し、3回のロービジョン研修会を実施した。また、関連して「目の健康講座」や研修会、ロービジョン外来へも参加した。年末にはリーフレット「見る不自由さをサポートする冊子 しまねビジョンねっと」が完成し、県内各所への設置、配布が始まった。各機関との連携協力を継続し、地域の視覚障がい児者のサポートを行うとともに、本校就学に関する情報提供を強化していきたい。		
	20	総務部	学部や他の分掌等と連携し、学校行事およびその他の活動をホームページに掲載する。	3.5	・速やかに掲載することができた。各分掌等での情報発信の1つ手段として活用してもらいたい。		
	21	総務部	児童生徒の作品展示や視覚障がい教育の理解啓発活動を実施する。	3.8	・松江地区の開催か会場の都合で早まり、児童生徒の作品が揃いにくいこともあったが、協力して、例年通りの展示・理解啓発活動ができた。来年度も出雲地区、松江地区の作品展を実施し、西部地区については、協力が得られれば、展示物の出品する。搬入搬出に向くことは避ける。		
	22	研究部	弱視学級設置校や関係機関、本校教職員を対象に視覚障がい教育の理解と専門性向上のための研修会を実施する。	3.7	・視覚障がいに関する研修会について、弱視学級や県内の特別支援学校に周知し、情報発信と共に専門性を高める場の提供に努めた。専向研は、センターの機能を支える一助となるよう、引き続き研修内容の検討、講師の選定など検討していきたい。		
	23	保健部	関係機関が開催する研修会等に積極的に参加し、コーディネーターと連携し、校内に周知する。	3.5	・センター的機能の役割を意識した目標だったが、医療等に関する研修会に積極的に参加することができず、案内するにとどまった。今後は、参加した研修については、得た情報を教職員で共有できるようにメールや回覧等を活用して周知に努めたい。		
	24	事務部	校舎の改修において、学校の有すべき機能が十分に確保できるよう、施工関係者との調整を行う。	3.6	・今年度は、大規模改修により、教育棟の大改装を行い、寄宿舎女子棟の改修に着手した。改修を進めるに当たり、施工業者と教職員との間で、要望事項と現実的な対応との調整をとるべく、必要な情報を相互に適切に提供して協議するよう努めた。今後は寄宿舎の改修が本格化するが、施設機能が発揮できるような改修とすべく調整に努めたい。		
	25	事務部	経費削減意識を高めながら、一方で校内の安全や教職員の健康を考慮し、快適な職場環境のために適切な予算執行を行う。	3.6	・限られた予算の中で、緊急性のあるもの、必要性のあるものに優先順位を付けて対応した。各学校活動経費についても、担当者に具体的な予算額を示すことで経費節減の意識が根付くよう努めた。今後も、限られた予算の中で、現場の緊急性・必要性を考慮しながら適正に対応したい。		
	26	事務部	学校の窓口として、外来者への受付業務、電話対応など、心配りのある対応を行う。	3.6	・電話応対や受付窓口での業務は、学校の第一印象を決める重要なものであり、県民にとっては学校全体の評価に関わることであるので、このことを十分に認識し、相手の立場に立った丁寧な対応を心がけた。今後も相手に好感を持たれる対応を行いたい。		

注【評価基準】A(そう思う)、B(まあそう思う)、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)、E(わからない) 【評価点数】A評価の数×4、B評価の数×3、C評価の数×2、D評価の数×1の合計を、A～D評価の合計数で除したものだ。ただしE評価は除外した。 【学校評議員評価基準】A(満足)、B(ほぼ満足)、C(改善の必要がある)